

(特別支援学校版「学力向上実行プラン」様式)

平成28年度 徳島県立徳島視覚支援学校学校「学力向上実行プラン」

徳島県立徳島視覚支援学校長 上野 清文 印

1 学力向上検討委員会構成

学 力 向 上 検 討 委 員		
	職名・校務等担当名	氏名
管理職	校長 教頭	上野 清文 福原 孝弘
学力向上推進員	教諭(研究・情報課長)	内田 敬久
委員	教諭(高等部部長) 教諭(幼小中学部部長) 教諭(教務課長) 教諭(渉外・安全課長) 教諭(生徒活動課長) 教諭(人権・キャリア教育課長) 教諭(サポート課長) 教諭(研究・情報課長) 教諭(寮務主任) 主任寄宿舎指導員	真鍋 賀代子 大西 文代 蔭岡 絵美 久樹 磨美 神吉 しどり 倉元 麻由子 長尾 公美子 内田 敬久 吉本 佑司 長谷川 美智代

2 学力・学習状況における現状分析, 目標等

【3つの視点】

- (1) 基礎的・基本的な知識・技能の習得
- (2) 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成
- (3) 主体的に学習に取り組む態度の育成

(幼稚部) 幼児児童生徒の状況

よさ	○気持ちを自分なりの方法で表現しようとしている。保護者との愛着関係ができており、教員との愛着関係、友だちや興味があることへの関心ができ始めている。	課題	○障がいの種類や程度がそれぞれ違うため、各幼児の障がいの特性や実態に応じた適切な支援を細やかに行っていく必要がある。適切な支援により、自分なりの方法で気持ちを伝えようしたり、先生や友だち、様々な物に主体的に関わったりすることが課題である。
具体的目標(目指す子どもの姿)		成果指標	達成状況
○教員との愛着関係を築き、学校生活に慣れていくと共に、自分なりの方法等で気持ちを表現したり、自ら人や物へ働きかけたりできるようにする。		○「個別の指導計画」のコミュニケーションや主体的に関わることに関する目標の評価が80%以上○または◎になる。	評価
具体的方策(教員の取組)		取組指標	取組状況
○見えない、見えにくい、また自発的に動きにくい幼児に応じた環境を整えると共に、視覚障がいや併せ有する障害に関する知識や指導方法を身につける。 * 中間期の見直し		○保育室の環境の工夫を2点以上、教材の制作を5つ以上行う。 ○保育や視覚障害、その他の併せ有する障害に関する研修やケース会を年に7回実施する。そのうち1回以上専門家のアドバイスをもらう。	
達成状況を踏まえた改善事項			

(小 学 部) 幼 児 児 童 生 徒 の 状 況			
よ さ	○少人数や個別の学習時間が多く、それぞれの課題やペースに合わせた学習ができる。	課 題	○少人数での学習や活動が多いため、集団活動の楽しさを十分に味わう機会や集団の中での自己表現の経験が少ない。
具体的目標(目指す子どもの姿)		成果指標	達成状況
○他学部との合同学習、八万小学校や聴覚支援学校との交流及び共同学習に、落ち着いて参加することができる。集団活動では発語や発声など、各児童にふさわしい方法で、自己表現ができる。		○「個別の指導計画」の表現に関する目標や「交流及び共同学習」に関する目標がほぼ達成できる。(全て○か◎になる)	
			評価
具体的方策(教員の取組)		取組指標	取組状況
○合同学習や交流及び共同学習の前には、児童に合う支援や、各児童の自己表現の方法について、全教員が共通理解を持った状態で交流及び共同学習が実施できるようにする。交流実施後は、活動中の児童の様子について、参加した教員同士で必ず振り返りを行い、教職員で情報を共有する。		○年間10回以上、小学部研修や小学部会でケース会議、支援方法の検討を行う。 ○交流の都度、事前の打ち合わせと事後の振り返りを実施する。(年間10回以上)	
* 中間期の見直し		○聴覚支援学校の授業参観を年間一人1回以上行い、障がい種の異なる児童への指導方法や配慮事項を参考に、担任児童の交流の事前指導や交流時の支援方法に生かす。	
達成状況を踏まえた改善事項			

(中学部) 幼児児童生徒の状況

<p>主な</p>	<p>○生徒の障がいの実態はそれぞれに異なるが、互いを認め合い、ともに学習に励んでいる。教科担任との話し合いを重ね、それぞれの生徒の理解度に応じた課題を設定しながら指導を行ったところ、基礎的内容に関しては、少しずつ定着が図られている。</p>	<p>課題</p>	<p>○第2学年になり、今後学習内容もさらに深まってくるため、内容理解のつまづきが予想される。教科担任との連携を密にし、より一層一人一人の理解度を把握しながら、学習の定着を図っていく必要がある。また、学習への苦手意識によって心の葛藤が起こり、心理面で不安定になることもある。</p>
<p>具体的目標(目指す子どもの姿)</p>		<p>成果指標</p>	<p>達成状況</p>
<p>○わかる喜びと達成感によって自発的に課題に取り組む、進んで身につけたことを生活に活かそうとする。</p>		<p>○個別の指導計画の各教科・領域等の目標について、各生徒とも◎もしくは○の評価を70%以上得る。</p>	<p>----- 評価</p>
<p>具体的方策(教員の取組)</p>		<p>取組指標</p>	<p>取組状況</p>
<p>○生徒一人一人について、障がいや特性に配慮した支援・指導を検討し、共通理解にもとづく一貫性のある指導を継続して行う。 ○生徒一人一人に応じて教材教具を工夫し、指導に活かす。 ----- * 中間期の見直し</p>		<p>○教科担当教員を含めたケース会や連絡会、部内研修等を年間に15回以上行い、指導の統一・改善を図る。 ○毎週末の部会で、各生徒の状況をふり返り、指導の共通理解を行う。 ○生徒に応じた教材教具を10個以上作成し、自作教材シートに登録して周知を図る。</p>	
<p>達成状況を踏まえた改善事項</p>			

(高等部普通科) 幼児児童生徒の状況		
よ さ	○昨年度、日常生活や職業生活に必要な移動能力の向上を目指し、それぞれが自分の課題に根気強く取り組み、4名中3名が目標をほぼ達成することができた。学習面にも根気強く取り組む姿勢が見られている。	課題 ○卒業後の生活の中で求められる規範意識(時間厳守、整理整頓、挨拶励行等)やマナーの定着が不十分である。昨年度の目標が達成できていない生徒1名は生活のリズムを整えることが課題である。
具体的目標(目指す子どもの姿)		成果指標
○生活リズムを整え、身の回りの整理整頓や身だしなみについて意識し、その向上にむけて主体的に取り組む、時間やルールを自ら守って行動できる生徒。		○就業体験におけるマナーや身だしなみ等に関するチェックリストを作成し、教職員が連携して活用する。 ○チェックリストの80%以上の項目を生徒自ら守ることができるようになる。
具体的方策(教員の取組)		取組指標
○進路指導主事、保護者や寄宿舍指導員等と密に連絡を取り情報交換を行い、共通理解を図る。		○寄宿舍職員会議で話し合われた生徒の様子について、週に1回以上、部長を通じて連絡を受ける。連絡を受けた内容については普通科所属の教員が週に1回以上共通理解を図る機会を設ける。
* 中間期の見直し		評価
達成状況を踏まえた改善事項		

(高等部職業学科) 幼児児童生徒の状況			
よ さ	○あん摩・マッサージ・指圧師、はり師、きゆう師になるという卒後に向けての明確なビジョンを持って学習に取り組んでいる。	課 題	○一人一人異なる見えにくさからくる学習の困難をどのようにクリアしていくかが課題となっている。
具体的目標(目指す子どもの姿)		成果指標	達成状況
○専門的知識や技能を身につけ、施術者として自立できる生徒 ○社会人としての自覚をもち、他者と共存しながら、健康で豊かな人生を自ら切り拓くことのできる生徒		○定期考査等で6割以上の成績を取る。	----- 評価
具体的方策(教員の取組)		取組指標	取組状況
○知識・理解・技術を深めるために、生徒個々の課題を教員全体で共有し、改善に向けて取り組む。 ○臨床実習報告会を開催し、治療に対する研究的姿勢や人に伝える表現力等を養う。 ----- * 中間期の見直し		○生徒個々の課題に対して理療科会や職業学科会で共有し、補習を行う。 ○臨床実習報告会に向けて年間を通じて調べ学習や発表内容について指導を行う。	
達成状況を踏まえた改善事項			